



競技種目は2種類！

LEAD<リード>

ルール…スポーツクライミング競技の中で最も古い歴史を持つのがリード種目です。ロープで安全が確保された競技者が十数mの壁に設定されたコースを登り、その到達高度を競う競技です。

特徴…最も長い距離を登る種目であるため「持久力」が勝敗をわける重要な要素であります。また、最初から最後まで全力で登り続けられる距離ではないため、最小限の力で重力に打ち勝ち自身の高度を上げていく「テクニック」や、無駄な動きを省き長い距離の中で自身の動きをいかにコントロールしていくかなどの「戦略性」も問われる種目となっています。

BOULDERING<ボルダリング>

ルール…高さ5m以下の壁に設定された複数のコースを、制限時間内にいくつ登れたかを競う競技です。各コース制限時間内であれば、何回でもトライできるため、少ない回数で登ることも重要となります。

特徴…コースを登るための一つ一つの難易度や強度、不安定度がどの種目よりも高いことです。そのため、選手にはよりダイナミックな動きやテクニカルな動きが要求され、メンタルのコントロール力も順位を大きく分ける要因となります。

◎多久高校クライミング実績

H15年 静岡国体 少年男子 4位	H27年 和歌山国体 少年女子出場 (霧本・池田)
H16年 埼玉国体 少年男子 2位	(岸川・渡島)
H18年 兵庫国体 少年男子 6位	// ボルダー競技 8位
H25年 東京国体 少年女子出場	// 少年男子出場
H26年 長崎国体 少年女子出場	// リード競技 7位
	// ボルダー競技 8位

問い合わせ

情報課 広報広聴係
☎75-22280

ひぐち よしあき
樋口義朗先生
(多久高登山部顧問)

チャンスに手をかけ、高い夢へと登ろう。

多久高校の教師であり、クライミング班の監督でもある樋口義朗先生にお話を伺いました。

「ほかのことは考えず、登ることのみに集中できる。それがクライミングの魅力です。だから生徒たちも自然と集中力が身についていると思いますよ。またこの競技は落ちるのが前提なんです。何回も何回も失敗して、その度トライを繰り返す。だからこそ登れたときの達成感は格別ですよ。2020年に開催される東京オリンピックで正式種目となったスポーツクライミング。今後メディアでも取り上げられると思いますし、高さ5mほどの壁で行うボルダリング競技は現在とても流行しています。多久市のみならずにもスポーツクライミングについてもっと知ってほしい」

初トライで
「自分に向いているかも」と感じました。



▲霧本さんの練習風景

☆期待の選手
1年

つるもと なおき
霧本直生さん

(アジアユース選手権出場・岩手国体出場／2年連続)

小さい頃から柔道を習っていて、柔道のトレーニングのひとつに「ツナ登り」というのがあり、それがずっと得意でした。昔から木に登ることも好きで、小学3年生の頃にスポーツクライミングと出会い「自分に向いているかも」と感じました。

今年ジュニアオリンピックカップの年齢別カテゴリーで優勝し、9月末にはイランで開かれるアジアユース選手権に出場します。10月には国体、11月には中国で開催されるワールドユースなど、さまざまな大会が控えているので、ひとつひとつがんばりたいです。「夢はオリンピック!」と言いたいです。自分はまだまだだと思うので、これからもっとレベルを上げていきたいと思っています。

28年度 岩手国体 出場選手紹介



基里中学校3年
こじまりん たろう
小島麟太郎さん
(岩手国体出場／初出場)

多久高校には整った練習環境があり、競える相手がいる中で練習し、強くなれました。国体では自分らしいパワーの登りで、少しでも高く、多く登れるように、霧本さんと力を合わせます。